

伴走 × 共走 ～挫折の中、ガイドランナーとして「共に」走る～

視覚障害の女性と共に走る。それは私が福祉の仕事をしているからではなく、ただ「走ることが好き」という二人の共通点からスタートしました。

私は学生の頃から走ることをライフワークにしてきましたが、ランナーとして挫折を感じている中で出会ったのが視覚障害者ガイドランナーというボランティアです。

担当していた彼女は右目がわずかに見える弱視ながら1人で通勤し就業後に長距離走練習を毎日している方です。歯に衣着せぬタイプの方で、伴走者がなかなか定着しない経緯がありました。私も何度も衝突を繰り返し、一度伴走から離れました。半年間あけて伴走再開に至ったのですが、まずは信頼関係の構築に力を注ぎました。礼儀や挨拶といった人として大切なことを根気強く伝え続けながら、いい走り（記録）という目標に向け

と一緒に挑みました。伴走再開後の初レースでは、自己記録を40秒も上回る好記録で走破。頂上を目指し2人で掴んだ喜びはまさに2倍で、彼女との信頼関係が完成された瞬間でもありました。喜びはそればかりでなく、私自身のレースも6年振りに記録更新する結果を得ました。支えているだけではなく、お互いに支え合っている関係だと気づかされました。その後、全国視覚障害者駅伝というパラメダリストが集う大舞台にも連れて行ってもらえたことは一生の思い出です。レベルアップした彼女の伴走はもう難しくなりませんが、これからもランナー同士切磋琢磨したいと思っています。

執筆者：しごとサポート神戸 小林 知世

Associa Staff

福祉デビューは18年前。アソシア設立は外から見ており、そのインパクトはとても衝撃的で、アソシアが描く新しい福祉のカタチに期待したのを覚えています。そんな憧れのアソシアに縁あって入社し4年目になります。そして私の趣味はサンバ（笑）ブラジルのサンバ衣装は露出度が高く周りから



山城 麻美

所属：若年妊産婦の居場所運営事業（ココママル）

の偏見に落ち込み好きなサンバを辞めようかと悩むこともありましたが、でもサンバのリズムに合わせて身体を動かしていると自然と笑顔になっている自分があります。笑顔でいると幸福ホルモンセロトニンUP！笑って踊って偏見なんて吹き飛ばしちゃいます！自分の好きに嘘はつかない！明るく楽しく遊び心を忘れずこれからも人生楽しめます。

Event information

2.4 (土) 10:00～14:00 (兵庫県川西市久代3-16-30)

【MBTIを活用した支援のプチ体験会】

支援者の方必見！自分と他者の違いについて理解し、チームとして支援するメソッドや「強み」に着目した支援を体験できます。



Associa
local network design

発行元：株式会社アソシア
法人本部：沖縄県中頭郡北谷町北前 1-10-8
TEL：098-926-5175 FAX：098-926-5176
MAIL：info@associa-lnd.co.jp
HP：https://associa-lnd.co.jp/

Reccomend Movie 004



今回は障がいと関係のない映画を紹介。ドンデン返し系の映画でNetflixやAmazonプライムでも視聴可能な心理サスペンス映画の「パッセンジャーズ」。主演は「ブラダを着た悪魔」で有名なアン・ハサウェイ。飛行機事故で、奇跡的に生き残った生存者5名のカウンセリングを担当することになったセラピストのクレア（アン・ハサウェイ）。心の傷を癒そうとグループカウンセリングを始めるが、患者それぞれの事故当時の記憶が食い違っており、クレアは事故の背景に何かあると感じ始める。そのうち、事故に関する新事実を口にした生存者が次々と姿を消していく。不審に思ったクレアは事故の真相を探っていくが、そこには追ってはいけない驚愕の事実が……。

執筆者：CEO 神谷 牧人

インスタグラムで情報配信中



ジョブ川西 ホイスコーレ沖縄

ASSOCIA JOURNAL

January
2023

TAKE
FREE



VOL.04



苦手なことがあっても安心して体験出来る場所「ホイスコーレ沖縄」

「やりたいこと探し」に必要なこと。それは何でもないように思える体験の積み重ね。

眠れない日々が続いた W 杯も幕を下ろした 2022 年 12 月、ホイスコーレ沖縄では、季節感満載のプログラムを組み 1 年の終わりを堪能しました。徒歩 2 分で海に行けるという事業所の立地を活かし、浜辺を散策して流木を拾い、クリスマスツリー制作に汗を流しました。バンド活動では、クリスマスにちなんだ楽曲をプログラム内、昼休み、放課後も返し練習を積み重ねホイスコーレ内ライブを開催することも出来ました。さらに外部講師を招きクリスマスキャン



だど繰り返す歌と、わざとらしくきらめくクリスマスツリー&キャンドルのせいで最高なクリスマスを演出することに成功しました。クッキングでは、クリスマスケーキ作りを通して憧れのパティシエを体験。家族に振舞えるように年越し沖縄そば作りの予行練習を行いました。そして最終日には 1 年の苦労を忘れる『忘年 BBQ』で閉めました。1 月からも七草粥作りや餅つき、成人祝い等、年始を意識出来るプログラムを予定しています。実技を多く紹介しましたが、座学では『あみよんに学ぶ恋愛学』、『back number に学ぶ失恋学』等をラインナップし、歌を文学として読み解き、恋愛マスターに成り切る準備をしています。スタッフ共々、学生とあーでもないこーでもないと一緒に経験値を積み重ねるプログラムがホイスコーレ沖縄の特徴です。

執筆者：ホイスコーレ沖縄（生活訓練）
高橋 徳之

Column

安心できる、自分なりに心地の良い「居場所」とは？～「わたしにとっての居場所」があることの大きな期待と可能性～

私 は最近「居場所」について関心を持っています。『居場所の社会学』という著書には、「居場所の問題を考えるにあたって大事なものは、その人がそこを居場所と感じているかどうかによってしか測ることのできない、極めて主観的なもの」と書かれてあります。つまり、その人自身がその場所を居心地がいいと感じているかどうかによるということです。

去年の 8 月から神戸で大学生の休学者の支援をスタートしていますが、相談にこられる方の多くは何かしらの「居場所」を探している方が多いように感じます。ご本人が本当の意味で「落ち着ける」「安心していられる」という場所をどう創るか試行中です。放課後に残る学生さん達の姿に、ハード面およびソフト面の空間づくりに支持をもらっていると励まされてもいます。

最近私は、仕事や家庭以外に、地域の商店街のコミュニティーや近隣の山に居場所を見出しています。誰かと一緒になくても過ごすことのできる僕なりの居場所です。もしかしら「居場所」が色々な問題を解決してくれる鍵になるかもしれません。

執筆者：ソーシャルサポート神戸
伊井 統章



アソシア社会大学 初代学長の想い～ vol.3 若者にとって必要なプラットフォームとは

初代学長、諸留さんに設立の経緯や当時の状況をお聞きしたインタビュー記事の最終回。※前回までのお話は vol.1 (11月号掲載) と vol.2 (12月号掲載) をご覧ください。

インタビューも終わりに近づいて来ましたが、支援者や本人、家族、社会に対してなど何かメッセージはありますか？

- 諸留：やっぱり大人に伝えたいですね。今思えば、きっかけはなんでもいいし、支援者のエゴだったりしてもいいけれど、そこには限界があって最終的に本人がどうしたいか、本人がやりたいことをどれだけ応援できるか、伴走できるかっていうのが結構大事かなと思ってますね。昔はこれができたら、こういうことができ…みたいな感じだったけれど、本人が今はこれがやりたい！っていうことをサポートすることが大事だと思います。だから、答えは本人の中にあるって思っています。

昔は、「週5で活動が出来ていないといけないよね」とか、「5～6時間は継続して作業が出来ないといけない」とか、あの時は昭和的な働き方の名残が残っていたんですね。でも今は週5で活動出来なくても、ひきこもっていても Youtuber としてでも働けますし

ね。まさしく今こそ、本人がまずやってみる、ダメだったら考えてみるというのが大切ですね。

- 諸留：既存の枠組みにはめないことですよね。既存の枠組みっていうのは、僕らを含む大人の認識ということ。その認識に当てはめようとするけど限界があるよねってこと。

あと、周りの大人がうちの子どもに「将来何になりたいの？」って職業をよく聞くんだけれど、職業聞かないでくれてると思いますね。なぜかって、本人が認識できる職業って狭いから。それより「どんな生き方がしたいの？」って聞き方に変えて欲しい。しかも、今の子どもは将来、現在はない職業に就く人たちがいるし、やっぱり「どんな生き方をしたいか」っていうことを追求していくと、新しい職業に出会うこともあると思うんですね。就労移行とかでも、「職業」って感じになりますよね…。

それは、支援者の視野の狭さも影響してしまうと思います。まず、支援する側の経験・知識が不足していたら、不安になる。だから、支援者の不安にならない範囲に着地させようとしてしまったりとか…。

- 諸留：そうですね。答えは本人の中にあるので、どんな生き方をしたいのかをよく聞いて、支援者は伴走するっていうのが一番いいかなって。自分はどんな生き方をしたいのかってよく考えている支援者はそんな支援の仕方ができるだろうなとも思います。

インタビュー：諸留 将人
元：アソシア社会大学 初代学長
現：合同会社 Reconnect



Interview



アソシアを利用されている方へのインタビュー

中学生の頃、青少年サポートセンターから通信高校と提携している場所があると聞き、見学に来ました。見学の時には、自分関わった事無のタイプの人が多くいて面白そうだなと感じた記憶があります。1年生の頃は3年生の先輩達に引っ張ってもらっていましたが、今は自分なりに考えて行動が出来ようになった気がします。学校は人との心の距離が近そうでも遠いけど、アソシアでは自分が無理しなくても、人との心の距離が近く感じるようになりました。

もうすぐ高校卒業ですが、卒業したら貯めているバイト代で好きなアーティストのライブに行くのが今の目標です。

協力：ホイスコーレ沖縄（放課後等デイサービス）利用・Tさん（18歳）